

ハバナステーション (Habanastation)

ジャンル：長編劇映画、カラー

言語：スペイン語

制作年度：2011年

制作者：キューバ文化省、キューバ・ラジオ・テレビ庁(ICRT)、キューバ映画芸術・産業庁(ICAIC)の共同制作

脚本：フェリーペ・エスピネイアン・パドロン

監督：イアン・パドロン

撮影監督：アレハンドロ・ペレス

編集：ホセ・ラムエル

音楽：レネ・バーニョス

サウンド：ディエゴ・ハビエル・フィゲロア

美術：ビビアン・デル・バジェ

助監督：オアリ・チオン



出演：

アンディ・フォルナリス (カルロス)

エルネスト・エスカローナ (マジート)

ルイス・アルベルト・ガルシア(ペペ、マジートの父親)

ブランカ・ロサ・ブランコ (モライマ、マジートの母親)

クラウディア・アルバリーニョ(クラウディア、小学校の先生)

ミリアム・ソカラス (カルロスの母親)

レネ・デ・ラ・クルス・オルティス (校長)

オマール・フランコ (ヘスス)



あらまし：

映画初出演の二人の少年が、主人公役マジートとカルロスを演じる。二人は、小学校の同級生で大の仲良し。学校では、同じ教室で授業を受け、同じ昼食を食べ、遊ぶ。しかし、二人の家庭は、まったく違う。マジートの父は、人気ミュージシャンで外貨収入があり、裕福で、ミラマール地区という富裕層が住む住宅街に住んでいる。マジートは、勉強好きで、甘ったれで、何不自由のない生活を送っている。一方、カルロスは、貧困層が多い、マリアナーオ地区に住んでおり、父親は、犯罪を犯して服役中、家は貧しく、住居は汚く、不潔で、生活は厳しい。

周囲は、いつも悪ガキたちがたむろしている。一つのキューバにある二つのハバナの現実を、何気ないショットでカメラは捉えていく。「経済モデルの刷新」の過程にあるキューバに見られる両極の世界。

ある日、マジートの父親が、ソニーのゲーム機「プレイステーション3」をマジートに買ってやる。キューバでは普通の家庭の子供は、とてももてない、羨望の品物だ。そこから、二人の間にいろいろな問題が起きてくる。映画は、現在のキューバ社会にあるエゴイズム、物質至上主義、別な面の寛容さ、無私の心、否定的な面と良い面の両面を、さまざまな角度から描写する。しかし、結局、二人は、友情とは何か、どれほど大切かということを理解するようになる。なお、監督は、原題を当初「プレイステイション(Pleisteichon)」とキューバ風に発音したものを考えていたそうですが、ソニーが受け入れず、「アバナ・ステイション」(Habanastation)となったもの。

作品受賞歴：

2012年第14回フランス・マルセーユ、南アメリカ映画最優秀賞受賞

2012年アカデミー賞ノミネートキューバ代表作品。

2011年第33回ラテンアメリカ新映画祭ユニセフ賞、ビビア賞受賞

2011年映画ジャーナル協会年間最優秀賞受賞

2011年第33回キューバ作家・芸術家同盟 (UNEAC) 映画コンクール最優秀賞受賞

イアン・パドロン(Ian Padrón)。**監督、脚本家。ドキュメンタリー、ミュージックビデオ多数を制作。**

1976年、ハバナ生まれ。父親は、キューバの代表的なアニメ監督フアン・パドロン。若年のときから、雑誌「スンスン」でICAICの短編アニメ用にシナリオを書く。1996年からICAICで映画製作を始め、翌年短編「エレベーターの愛の制作」を監督。1998年フェルナンド・ペレス監督の「口笛高らかに」の助監督を務める。



2000年キューバ国立芸術学校映画・ラジオ・TV学部を優秀な成績で卒業。卒業政策は、短編劇映画「バイク」。2008年の長編ドキュメンタリー、キューバで最強の人気野球チーム「インドゥストリアル」の知られざる実態を扱った「リーグの外で」は、多くの論争を呼んだ。その他、ビデオ・クリップを多数制作。

監督受賞歴：

2008年「リーグの外で」でキューバ映画ジャーナル協会最優秀ドキュメンタリー賞受賞。また、UNEACの非ドラマ部門の最優秀作品賞受賞。